

学術委員会「活動状況と今後の展望」

委員長 公立松任石川中央病院 高本 美由喜

【目的】

学術委員会は、石川県病院薬剤師会（以下、県病薬）会員の学術活動の支援と自己研鑽の場を提供する目的で、学術研修会を企画、開催しています。また、県病薬が主催する総会の開催や、日本病院薬剤師会北陸ブロック学術大会の支援などを中心に活動しています。

【これまでの活動】

学術委員会が企画、開催する研修会は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する以前には会員発表の研修会と、三者合同例会を行っていました。

会員発表の研修会では、各施設における業務改善の取り組みや、日々の業務で経験した症例の報告、臨床的な疑問に対する研究などの成果発表の場であり、他の施設を知る良い機会となっていました。また、若手薬剤師にとっては、口頭発表を経験する恰好の場となっているとも考えており、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な学会・研修会等がウェビナー形式となった現在も、同形式で継続して開催しています。

一方、三者合同例会は県病薬が主催となり、病薬正会員と製薬企業及び医薬品卸の三者が一同に会して開催される全国的にも珍しい研修会（講演会＋懇親会）で、講演会には例年200名を超える参加をいただいていた。しかし、2019年度以降は中止せざるを得ない状況となっています。

【活動状況と今後の展望】

会員発表の場である学術研修会に関しては、2020年度から年度末の開催となっています。2021年度から、発表された会員に図書カードを授与しました。2022年度からはクオカードに変更しました。また、発表者の中から県病薬研究奨励賞1名（50歳以下）を、学術委員会から選出することが県病薬役員会にて承認されました。この研究奨励賞は、県病薬の発展・進歩に寄与する顕著な医療薬学的研究を発表し、将来発展の期待される薬剤師を顕彰することを目的にしており、賞状と副賞が県病薬から授与されます。

移動なく遠隔地でも発表・聴講ができるウェビナー形式を活用して、今後も学術研修会を継続していく予定ですので、奮ってご参加の程、宜しく願いいたします。

また、ハイブリッド形式を視野にいたした学術研修会と、三者合同例会に関しても開催できればと考えています。